

千 草 子 報

題字 原あやめ

伝統の良さを生かして

学院長 細田直孝

名誉会長原あやめ先生は、梅雨のうっとり
しい日々も、お好きな花に囲まれ、楽しんで
いらっしやるご様子です。昨年の山脇展には

学院にお出かけ頂き、在校生の作品やイベン
トもご覧になりました。中でもジュエリー
ショーには、若いエネルギーを感じられなが
ら、昔のファッションショーの思い出を重ね
られて、懐しさと、隔世の感を味わっていら
っしゃるようでした。何分、ご高齢のため学
院への足は遠くなりましたが、穏やかにお
過しでいらっしやいます。

学院長に選任されて間もなく一年が経過し
ようとしておりますが、大学就学人口減少の
影響は専門学校にもいち早く及んできており、
本学院の今後の運営も厳しい状況におかれて
いることを肌身に感じざるを得なくなってお
ります。

しかし、原あやめ先生の教育理念のもとで、
少人数教育の伝統の良さを生かして、質の優
れた職業人を社会に送り出して来た本学院と
しては、多少の逆風は恐れることなく、社会
が求める生活文化の洗練された職人技を今後
とも少数教育の中で学生たちに習得させるこ
とに自信と誇りを持っております。

昨年度からビジュアルデザイン科はデジタ
ルデザイン科を統合し、本年度からは2年生
を含めて新しいカリキュラムに基く授業を進
めております。インテリアデザイン科、ジュ
エリーデザイン科ともども、生活に結びつい
た人間の感性と技術の融合した見事な成果が
やがてもたらされるよう、講師の先生方も努
力を傾け、いろいろと工夫を凝らされてお
ります。

山脇敏子先生の「山脇服飾美術学院」から
原あやめ先生の「山脇美術専門学校」へと本
学院の歴史は大きく転換したように見えます
が、斬新なデザインと豊かな装飾性を追求す
る姿勢は一貫して変わらず、それ等の特徴とし
た卒業生の皆さんの作品が、これからも生み
出されていくことを期待しております。

■目次

- 伝統の良さを生かして……………1頁
- 卒業生だより／千草会賞
山脇ギャラリー展示スケジュール…2・3頁
- 学科長より……………4・5頁
- 在校生の作品紹介／在校生より……6・7頁
- インテリアデザイン科同窓会展
研修旅行……………8頁
- 卒業生ニュース／千草会費……………9頁
- オフィスから・アトリエから……………10頁
- 学務課より・入学案内・就職……………11頁
- 山脇展のお知らせ／専門学校美術展
講師・職員移動報告／千草会より……12頁



18

年号

卒業生だより

「イタリアの風に吹かれて」



デザイナー養成科 昭和29年卒
手芸高等科 主任
クラフトアート科 講師
オクダとし恵

この十年はニードルアートのテーマをイタリアに定め昨年六月末にペルーから四年振りに帰国、十二月に銀座ワコー（ギヤラリー）で四回目の個展を終えた。個展終了後も未だイタリアの地面から足も心も離れられず久しぶりの日本にも落ち着けず、ふわふわの毎日が去って行く、気もそぞろの私で困ったものだ。

山脇を離れて十余年、遠ざかれば胸の中、一入の思いで書き出したのだが、何とも懐かしさで何かどう書こうかしらん…の卒業生だ。山脇で教鞭を執りながら、色々な雑誌に頼まれていた月日がめくるめくる思いの中、何と大切な自分との向きせぬ「たたかい」の始まりだったことか、が七十五才になった今、感無量。二十代、三十代は種まき時代と夢中いっぱい、教えられ、教えた事の大きさを思う。

イタリアの空気が、光、風の香り、音…をなんとか作品に…と、毎日夢中で目をまわしながら取り組んでいた。イタリアの街中も、わが庭でもよく見られた「黒歌鳥」の、あの美しく豊かなさえずりを作品に吹き込みお聞かせ出

来たらなあ…。

家庭画報に掲載された私の記事を見た四十五年前に教えた生徒さん達からの「寄せ書き」がペルーに届いた時の嬉しさは、山脇の頃のすべりっぱいまで広がる思いだった。友達同士いまだに付き合ひ、助け合ひ、励まし合っているという、そのやさしさっぱいっばいの学生の時から凄しい深い絆。帰国して、久しぶりの御目もじ、「目」の豊かさに感激、本物に生きて来た尊さを語っているのが、どれほど嬉しかったことか。

作品は、その人のすべてがかもし出されると言はれるので、山脇の教えが原点だと思いつながら、これからも豊かなやさしさを何とか少しでも作品に出せたらな、と思ひなやむ。

異国では皆様の力いっばいの応援ほど心の支えになったものはない。ほんとうにありがとう。

「オクダとし恵ニードルアート展」

05年12月 銀座ワコーホールにて
イタリアの風に吹かれて



「エトルスコ門の見物鳥たち」

はるか見上げるエトルスコ門
あんな高くを何と想う鳥たちのひるがえり
小さい人間共を笑っているよ
構えているよ
そしていつかは消えて行く
あいかわずそそびえる門よ

「再び山脇し…」



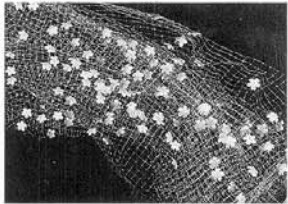
ジュウリーアート科 平成8年卒
ジュエリーデザイン科 講師 表面装飾
富永文
(旧姓 鶴田)

卒業して十年が経ちました。長かったようにも、一瞬だったようにも思えます。

山脇へ入学した当時は、ジュエリーの知識はもろろん、画材の名前もほとんどわからなかった私ですが、ものを作ることが大好きで、出来る事や知識が増えていく毎日が楽しくて、あつという間に二年間が過ぎてしまいました。卒業後、目の前にあることを必死にこなしながら十年が経ち、今やっと自分でも「プロ(?)」と小声で言えるようになりました。今でも仕事をしていると、学院で先生方がおっしゃった何気ない一言一言が不意に思い出されることも多くあります。また、丁寧に組まれたカリキュラムのお陰で職場では多くのアドバンテージを持つことが出来たのではないかと感じています。もちろん、私自身一通りの努力はしてきましたと思えますが、私がか、ジュエリー業界で仕事出来るのは、学院と先生方がそれを支えて見守って来てくださったお陰だと、常々、深く感謝しております。

この度、この気持ちを形に表すチャンスを得ました。十年前と変わらぬ、九段の桜並木が淡く煙る四月、母校で、今年から一年生の表面装飾を教えることになりました。学生たちに

は、現場の生の声を届け、卒業後のビジョンを持てるようにと心がけています。また、授業内容にとらわれず、ひとつでも多くの技術や、知識、経験談など、覚えていって欲しいと、折に触れてたくさんのお話をしていきたいと思ひます。二年後、学生も私も清々しい晴れやかな気持ちで卒業式を迎えられるように、一回一回の講義を精一杯充実させ、大きな力にしていきたいと思っております。



「春」 風のためのジュエリー
富永文



「Sign」 桐井英明

山脇ギヤラリー展示スケジュール

学院・千草会関係

- 6月16日(6月28日) アイソリテデザイン科同窓会展
- 8月1日(8月29日) 学生作品展 (千草会)
- 9月30日(10月1日) 山脇展 (学院)
- 10月13日(10月18日) 二人展 (千草会)
- 11月6日(11月15日) 清水 要展 (千草会)
- 11月17日(11月18日) 卒業・進級制作展 (学院)

●先日、駅前の名所をブログで紹介するウェブサイトに、山脇ギヤラリーが紹介されました。訪れた人からも「市ヶ谷の活性化に貢献している」などの声も頂きました。今後も、会員の皆様方の発表の場として、ぜひ、ご活用下さい。

11月には、長い間L.A科・V.D科の講師としてご指導を頂いた清水要先生の個展が予定されています。作品を前に、先生の講義を思い出されることでしょうか。是非、足をとお運び下さい。山脇ギヤラリー委員 篠原一郎(学内会員)

- 千草会賞
- 平成17年度千草会賞を受賞された方々やめを名譽会長原あやめ生より、褒賞状と記念品が授与されました。
 - VD科 王 微思 「ジャン・デュビュフエ」
 - ID科 田代洋文 「ピラ・メル」 (アルヴァ・アルト)
 - JA科 木村智久 「ジュエリーデザイナーズイン ジャパン」

「学院で学び、伝えたかった」



スーパーCGアート科 平成11年卒
ビジュアルデザイン科 映像サウンドコンピュータ基礎 Web・RIP基礎 担当
桐井 英明 専任

早いもので「ものを作るという事」を学びたいという一心で大学卒業後入社した会社を退き、希望と不安を胸に初めて山脇の門を潜つてから9年が経ちました。楽しみながらも課題制作に追われ続けた学生時代の2年間。卒業後、コンピュータ・メンテナンス担当として試行錯誤を繰り返しながら職務に励んだ7年間。その間、多くの先生方にご指導を頂いた中で「一番印象的な事は「コンピュータは道具でしかない」という事です。近年のコンピュータ技術の飛躍はめざましいものがありますが、コンピュータを通して自分の考えを表現する事が大事であり、コンピュータの技術・表現力があがっても、作る側の感性が大切だという事を、深く今でも実感しています。

今年度より、ビジュアルデザイン科1年生の「コンピュータ基礎」「Web/DTP基礎」2年生の「映像・サウンド」の授業を受け持つことになりましたが、これからは、学生と共に「ものを作る喜び・厳しさ」を学んで行きたいと思ひます。

お変わりございませんでしたか 度重なる災害の報に案じておりました。千草会

「ビジュアルデザイン科」



学科長
姉 蘭 公也

20代後半に世話になったデザイン事務所のボスが「ムービングダイメンション」という言葉で社会の価値観や生活の座標軸は絶えず動くと教えてくれました。あれから20年たつて、あの言葉を実感を持って思い起こします。変わらぬ価値観や生活も多数存在しながらも、インターネット、携帯というコミュニケーションの手段が大きく変化して社会全体が大きいというねりのような変容を体験しています。でも人間の社会は人間が作るもの。学校はその人材を作る場所、人間や社会環境など大事で普遍的な事や変化している現実の物や事を伝える立場、役目をこの変容するうねりの中で実感しています。

そんな事を考えながら作り上げたV.D科の新カリキュラムが、今年18年度から一、二年生にも本格的にスタートしました。山脇の少人数制という特徴をうまく活かしたものです。このカリキュラムは一年次で幅の広いデザインの各分野の基礎を必修で学び、二年次で広告・web・出版・パッケージ・グッズ・イラスト・アートなど幾つかの方向性から学生の希望する進路に沿

「ジュエリーデザイン科」



学科長
石 倉 禎江

研修旅行を終えて、一年生もすっかりなじみ、ジュエリーデザイン科も又、新しい展開のシーンが見られます。たった二年間という短期間、こども成長するものかと、若い才能のしなやかさに目をみはる思いです。

今年も開催された日本ジュエリーアート展にも、きびしい審査を勝ちぬいて三名の卒業生が入選をはたしました。同窓生のグループ展や選抜の新人展等いろいろな活動している人々も多く、初期の卒業生達は早くも三〇才首を迎え、子育て時期の人も多く、小休止というグループと、益々仕事にのめりこみ、中堅プロとして社会での活躍に生き生きとしている人々もいて、話題も豊富で楽しいニュースも多く聞かれます。

ID科のカリキュラムは、ジュエリーに関しての各種素材を活かす諸技術の修得に力を入れていきます。ものつくりの原点は目的に応じた素材との出会いと、その素材の発する魅力を引き出すデザイナーの知恵と工夫を結果した技術にあると思います。

生きる喜び、楽しみの為に必需品として存在するようになった「ジュエリー」という分野で仕事ができることが、楽しいというだけではな

って授業を選択して行きます。この選択の仕方は一週間を通し同次限で二つの授業があり、そのどちらかを選択するもので、一週9×2=18コマの授業数から9つの授業を選択していくこととなります。又、学生個々の自主性を重視し、複数の授業と課題間でコラボレートして制作できるようにしている事も表に見えてこない事ですが、もう一つの特徴として挙げられます。

学生が希望する最適な選択のために、一年次後期から個別面談で各自の希望を聞き、個性や適正等のアドバイスを交え、選択の仕方をアドバイスして行きます。当初は同次限の二つの授業の人数配分が心配されましたが、幸い大きな偏りもなくスムーズに開始できました。

この選択制授業が、学生達の山脇在学時にクリエティブワークのきっかけを掴み、それを大きく伸ばす一助になれば嬉しい事です。



「雨の日の事」

く、有意義なことで自覚して、社会人として活躍の場を広げていってくださる事を期待しています。

幸い数多くの優秀な卒業生達の努力で企業からも厚い信頼を得られ、求人募集も数多く来ております。これからもジュエリー業界を発展させる原動力となりうる人々を輩出できる山脇美術専門学校ジュエリーデザイン科でありつづける事を願っています。

四月から二期生の富永 文さん(旧姓鶴田)を講師に迎え、十年間現場で培った経験を後輩に教えてもらっています。学生の反響も、期待をこえているようです。

「絆」 ある偶然の出会いが
いつしか強い結びつきに



「思い出」 旅で見かける様々な家
一本の梯子に暮らしぶ
りをかいまみる

「インテリアデザイン科」



学科長
市 村 倅子

インテリアデザイン科の現在のカリキュラムは、建築寄りになっています。これは二級建築士(受験資格取得)の為の部の指導によるものです。インテリアデザイナー、インテリアコーディネーター、又、店舗のディスプレイなど、どの分野を目指しても必要となる図面が描け、読めることです。それには、図面が正確に描けるようになることです。そして、それは正確に仕事をするための手順を学ぶと共に、仕事に対する「集中力・忍耐力」を養いながら養っていくものです。図面が読める事は、ドアや窓の開口部の位置によって、光も、風通しも、家具のレイアウト等の違いによって、空間の豊かさ、美しさが分り、それによって様々な提案をすることが出来ます。手描きの図面が描けることで、コンピュータに置き換えても、図面表現はスムーズに出来ます。その図の言葉は話せなくても、図面やスケッチで、いろいろな国でもデザインやアイデアの空間を提案する仕事が出来ます。住宅を、店舗を、ディスプレイを、家具デザインを。技術を習得しながら、幅広く、良い物を沢山見て、触れて、一人一人が感性、

を磨いていけるよう、講師の先生方からもアドバイスを頂いております。

本年は隔年で行っています「第3回インテリアデザイン科同窓会展」を、6月中旬に開催しました。前回と違って、出品作品は減りましたが、実物の石と金属のシンプルなセンターテーブル。旭川科学館のパネル(ファイルの写真には、沢山の子供達が…いろいろな体験を楽しむ様子) 店舗用椅子の図面。チェエントの模写、写真パネル(実物は、日本技能士連合会会長賞受賞)などを展示。又、入学間もない一年生の、手触り良く使えるドアハンドルのデザインと実作を楽しみました。二年生は「50年後の私の家」をテーマに、夫婦二人の、水の流れ、光と風、緑を取り入れた癒しの、安心の家を提案していました。

卒業生は、今が一番忙しい時期と、日々キャリアを積んでいる事が感じられ、頼もしく思います。

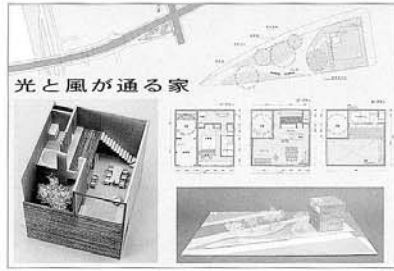


「市田邸」 ペントハウスに作ったファミリールーム

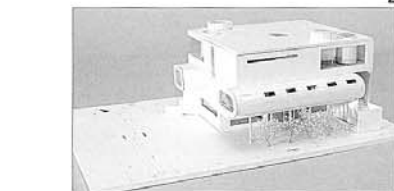
在校生の作品紹介



- ←ジュエリーデザイン科
1.打ち出しの華やかなネックレス
2.布目象巖のペンダントトップ
3.回転するブローチ (桜に舞う蝶をイメージ)
4.キュービックジルコニアを飾った銀の箱
5.手描きレンダリング



- インテリアデザイン科→
1.住宅デザイン (光と風が通る家)
2.店舗デザイン
3.照明デザイン (光を反射するアクリル)
4.1/5椅子の模型
5.手摺り・ドアハンドル



カリキュラム

密度の濃い
ジュエリーデザイン科
2年 海老沢友紀
入学当初は、糸鋸を使うこともままならなかったのですが、日々の制作作業で、糸鋸がだんだん使えるようになってきた時の嬉しかったことは忘れられません。今年度は、授業の密度も濃くなり、作品に自分のオリジナリティーを、どう表現させるかを考えながら課題に取り組んでいます。そしてこれからの自分の方向も見つめながら学んでいきます。

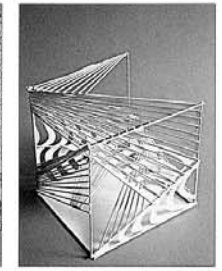
たいへん でも たのしい

実感して
インテリアデザイン科
2年 宇都宮英介
2年生になり、専門的な事を学ぶ時間が多くなりました。1年生の時、一つ一つ課題をこなしていくうちに、作品の制作も早くなり、少し余裕も出て、クラスメイトの仕事振りも見えて学ぶことも多くなりました。次第に自分の作品に対する制作姿勢も変わってきました。住居デザインからディスプレイなど、色々なデザインに気を配り、考える様にもなりました。また、最近では着実に技術の進歩、知識も身に付き始めていくように実感しています。

在校生の作品紹介



- ビジュアルデザイン科→
1.ディスプレイデザイン
2.表現技法立体 (様々な素材や加工方法から立体的な発想を学ぶ)
3.造形素材演習 (素材の特徴をつかんで応用)
4.公共広告ポスター
5.基礎デッサン
6.立体イラストレーション
7.パッケージデザイン



むずかしい けど おもしろい

製図の宿題
インテリアデザイン科
1年 後藤紋香
高校時代に比べ、学校生活がガラリと変わりました。毎日出る製図の宿題。始めはインテリアの勉強なのに何故?と思いましたが、学んでいるうちに図面が読めないとも始まらないことに気づきました。今はグリーンインテリアの授業が楽しく、植物に触れて癒されています。今、授業では「マンシヨンのグリーン計画」でどんな提案をしようかと、楽しみに学んでいます。

緊張感が
ジュエリーデザイン科
2年 小林健介
今、就職活動中です。将来は一流デザイナーになりたい思いで一杯です。次第に自分の作品を見てもらいたいという意識も強くなってきました。今年度の山脇展では個展を予定、制作に励んでいます。皆に見てもらえると思うと、とても緊張します。その緊張感が大きなエネルギーになっていくと感じ、これも自分を磨くチャンスと捉えて乗り切っていきたいです。これからも色々な壁とぶつかるとはありますが、頑張って夢を実現させたいです。

カリキュラム

同じ目標
ジュエリーデザイン科
1年 西川真菜
入学当初は、人見知りで大丈夫か、とか、授業についていけないかと、そんなことばかりを考えていましたが、最近では、同じ目標を目指している友達と、いろいろな話しながら面白いものを沢山見て、先生方の講義に耳を傾け、黙々と実習し、すべてがとても興味深く、中身の濃い毎日過ごしています。これからの2年間はきつと、あつという間に行きたいと思っています。

卒業生ニュース

2006年 5月 第24回 日本ジュエリーアート展

上野の森美術館

入選 一般部門

2006年度のJ J D A展に下記の方が入選されました。

相場京子



相場京子 H17年卒
ネックレス
シルバー・ラタン・ウルシ



奥谷桃枝子 H16年卒
リング
シルバー・パール



杉山千尋 H13年卒
バンダ
シルバー・コパー

シルバーと自然素材である藤を使ってネックレスを制作しました。異素材を組み合わせた螺旋に対称的な黒と朱を使うことで力強さと繊細さを表現しました。入選しました私共、今後も日々精進、制作活動に励んでいきたいと思っております。

2005年 10月 MALEA展

山中政江 洋裁規範科 昭和41年卒 山脇ギャラリー



卒業後、趣味として始めた革工芸でしたが、10年目に日本革工芸展に出品した作品が文部大臣奨励賞を頂き、それを機に改めて本格的に革の制作に取り組んで行きたいと思うようになりました。

創作する傍ら、革工芸教室「MALEA」を主催して25年、一つの区切りとして教室全員の発表の場をと思い、山脇ギャラリーで作品展を開くことになりました。教室の生徒さんは若い方はもちろん、92才のご高齢の方までおいでになり、時には私の方がいろいろ教えて頂くことも多く、教え、教えられながら楽しんでおります。皆さん、それぞれ作られたバック等はプレゼント用にもなっているようです。又、私自身も平成16年にバッグ部門で東京都知事より東京マイスターとして知事賞を受賞致しました。これからもこの賞に恥じない様、今まで培ってきた技術を活かしながら、作品を創って行きたいと思っております。今回、母校のギャラリーでの開催で、佐藤先生、清水先生も訪ねて下さり、久々にお目にかかる事が出来、大変嬉しく、なつかしい日でした。ありがとうございました。

2006年 2月 イロジカケ展

伊原友子 ビジュアルデザイン科 平成18年卒 山脇ギャラリー



グループ展「イロジカケ」を開催。母校のギャラリーが使えるので、と友人に声をかけ、集った11人、各自が、それぞれの色をテーマに作品を作ることになった。卒業後は、皆、新しい環境についていく事で精一杯、なかなか全員が集まれることは少なく、それでも月に一回は集って内容を詰めていった。特に最後の一ヶ月は仕事と、自分の作品制作、DMの発注などで師走並みの忙しさだった。

そして迎えた当日は、友人、知人のほかに、外からも見える作品が気に入って、入ってきたという方も予想以上に多く、驚きと同時に、人に作品を見てもらえているという、今までにないプレッシャーを実感し、沢山の人からの意見や感想を頂けたという事は、とても貴重な体験でした。すべて終わって思った事は、初めて社会に出て、全く自由な仕事はあまりなく、自分自身を100%出せる場を与えてもらい、改めて展覧会の貴重さを知り、相談にのって頂いた先生方に心より感謝しています。つねに作る楽しさを忘れずに次の機会を。

●千草会費の会計報告

入学時に取めて頂きました千草会の終身会費について、誌上で会計報告をいたします。

平成17年度 千草会費 収支

収入	千草会費	2,130,000
	利子	+ 56
平成17年度収入	計	2,130,056

支出	千草会報 発行費	768,612	収支	収入	2,130,056
	行事費 同窓会費	0		支出	- 1,663,371
	千草会費	40,655		計	466,685
	千草会員 展示 お祝い	43,943			今年度の千草会費の残金
	通信費	71,555			今年度の残金は次年度に千草会費として繰り越します。
	委員会運営費	738,606			
	計	1,663,371			

第3回 インテリアデザイン科 同窓会展

2006年 6月16日(金)～6月28日(水)

平成17年卒 曾我部千穂

昨年卒業した私は、木材や手工具、加工方法などについて、更に学びたいと思い、一年間学校へ通いました。今回の同窓会展には、その時のグループで製作したチェストを展示させて頂きました。完成までの過程には様々な問題があったり、失敗があったり、納期に迫られたりと苦労が沢山ありましたが、苦勞した分、得することも多く、とても充実した時間でした。製作したチェストは多くの人に気に入って頂け、日本技能士連合会長賞を頂くことが出来ました。本当に嬉しかったです。今回の同窓会展にも参加し、更に成長したものを展示したいと思っています。そのためにも沢山経験し、吸収して頑張りたいと思っています。

次回「ID科同窓会展」
2008年6月中旬の予定



平成18年 5月18日・19日

一泊研修旅行 各科別

ビジュアルデザイン科

インテリアデザイン科

ハラミュージアム・アーク びーどろ お面の里

富士屋ホテル、彫刻の森美術館見学



アンディ・ウォーホルの作品の前

おめんの絵付け

彫刻の森美術館

富士屋ホテル 見学と実測実習

牧場と同じ敷地内にあるミュージアムで現代美術にふれ、都会とは違った環境の中で、ゆったり過ごしました。吹きガラス体験、お面の家では張り子のお面に絵付け、約1時間。日頃の技術を生かして皆思い思いに彩色をしました。

灼熱のガラスに息を吹き込む作業は大変でした。ガラス美術館、耳飾り館の見学では、時代や国境を越えた、数々の工芸品に心を奪われました。牧場では一時、童心にかえって……。



吹きガラス体験

群馬ガラス美術館

平成19年度学生募集のご案内

学務課広報より

インテリアデザイン科 平成17年度より、3学科組織になりました。
 (昼 2年制) 40名
 現代のデザイン業界に適応できるように、1年次はデザインの基礎を中心として、平面、立体、写真、コンピュータなど多様な講義や実習を通して基礎スキルを徹底して学びます。2年次から、各自の希望職種に合わせ、選択授業で分野別に高度な専門スキルを習得。アイデアをデザインに具現化する実践的な方法を中心に学習し、広告・Web・グッズデザイン・イラストレーションなどをマスターします。

インテリアデザイン科 (昼 2年制) 20名
 住居などの快適な空間を創るため、1年次は、すべての基本となる基礎力を身につけるため、手描きで図面を作成しながら分野のスキルを専門的に学べるように、授業を行っています。2年次ではCAD、店舗デザイン、ディスプレイなど。インテリア業界の制作現場で求められる専門知識のテクニックを習得。インテリアデザイナーからグリーンコーディネーターまで、幅広い分野で活躍できる人材を育てます。

ジュエリーデザイン科 (旧ジュエリーアート科) (昼 2年制) 15名
 独自性を求めて、ジュエリーデザイナーを目指している人に、実技の時間を多くとり、沢山作品が作れるように一人一台の作業机を完備し、少人数制教育を徹底させています。製作実技のほか、CG実習、プレゼンテーション技術、アイデアスケッチやレザリングなどジュエリーの歴史や材質についても学びます。又ジュエリーコーディネーター資格取得のための補講も行い、ジュエリーのプロフェッショナルを養成しています。

願書受付 高校既卒者 推薦一般 9月1日～ 3月31日
 高校生 推薦一般 10月1日～ 3月31日
 一般 11月1日～ 3月31日
 (日・祝日・休校日を除く)
 (土曜日の受付9時～15時)
 ホームページ <http://yamawaki.ac.jp/>

平成18年度体験入学等のご案内

就職について

平成18年度の体験入学・説明会の日程を、ご案内いたします。今年度の体験入学は、ミニ説明会を含め、全部で17コースを用意しています。例えば、VD科では、MacによるTシャツの絵柄・カレンダーをデザインします。又、ID科では、1/5サイズの椅子の模型を制作。JD科では、パルリングを作ります。デザイナー希望の方に、体験入学などへの参加をお勧め下さい。

お問い合わせ・お申し込み先 TEL03-3264-4020

ミニ説明会&体験入学	学校説明会	イベント説明会
第1回 6月18日(日)	第1回 5月21日(日)	第1回 8月24日(木)
第2回 7月24日(月)	第2回 6月17日(土)	第2回 10月27日(金)
第3回 7月25日(火)	第3回 8月3日(木)	第3回 11月10日(金) ※要予約
第4回 7月26日(水)	第4回 9月16日(土)	
第5回 8月16日(水)	第5回 10月22日(日)	
第6回 8月17日(木)	第6回 11月18日(土)	
第7回 8月18日(金)	第7回 12月10日(日)	
第8回 8月27日(日)	平成19年	
第9回 8月28日(月)	第8回 1月20日(土)	
第10回 8月29日(火)	※要予約	
第11回 9月10日(日)		
第12回 10月29日(日)		
※要予約		

実施時間 (1日2回)
 ①10:30～12:00
 ②13:30～15:00
 受付時間 18:00～19:30 (受付17:30)

学内見学 月曜日～土曜日 (休校日を除く毎日)
 受付時間 月～金 9:30～16:00 土 9:30～14:00 ※事前連絡不要

今年度は例年ないペースで求人が寄せられています。デザイン業界でも、新卒採用が回復してきたように思います。しかしながら、新卒者に求められる能力は、年々高まる一方です。昨今では、社会における仕事の意義の変化や雇用形態、職業の多様化が進み、学生も様々な不安や悩みを抱えています。しかし、仕事を通して得られる労働の楽しみや、社会参加の素晴らしさに期待し、就職活動に取り組んで欲しいと思います。

主な就職先 (平成十八年三月卒業生)
 (株)赤丸広告事務所、(株)荒川広告社、(株)ファブワークス、(株)フジシールインク
 1ナショナル、(株)ジェイアイ、(株)パルリング印刷、(株)ウェスト、(株)東京モビル、(有)電
 影工房、クリエイティブアグツク、(有)左知子建築設計室、(株)チヨダシステム、
 キザワ・ジェイ・シー・エム、(株)エス・エス・エス、(株)森銀器製作所

追伸 千草会員の皆様からも、在校生の就職に関する情報のご提供をお願い申し上げます。
 (学務課就職係) 森田 03・3264・4020

オフィスから・アトリエから

インテリアデザイン科 平成16年卒 **ジュエリーアート科** 平成18年卒

施工会社



デザイン部 池田純子
 今日から私は正社員。2年前、大手のディスプレイ会社でアルバイトをしていましたが、今春4月から小さな設計・施工・デザインの会社に移りました。大手の良さ、小さな会社の良さ、どちらにもマイナスポイントもあります。その両方を体験できたことは今後の私の大きな財産になると思います。私は大学卒業後、山陽へ入り、社会人としては遅いスタートでした。その間にできた友人、山陽の先生方、会社の上の方々との出会いはかけがえないものです。山陽時代、楽しすぎておろそかになってしまった事を後悔したこともあり、今、それもバネにして正社員として責任を持った仕事をしたいと思っています。自分の方向を見つめた遠回りも、いいものだと思います。

森銀器製作所



製造部 木村智久
 伝統工芸に心惹かれ、その関係の会社を探し、「ここだ」と思い、創立80周年、伝統工芸士の仕事も見習いたくて、この会社に入社しました。銀器からアクセサリなど幅広く作っています。作業に関しては「失敗を恐れずに沢山の仕事を覚えてもらいたい」と云われ、恵まれた環境にいると感じます。商品を作るという事は、一つの作業を何個も連続してやるので、慣れるのも、コツを掴むのも早く、技術面も上達しますが、自分の作品作りとは時間のかけ方も違うことを知り、在学中に先生方が「一度は会社に入って経験しておいた方がよい」といわれた理由がわかりました。あまり就職を意識していなかった私ですが、今は、やりたい仕事ができ、やっていて楽しい好きな仕事だという実感を持って、社会人を楽しんでいます。

デジタルデザイン科 平成14年卒 **ビジュアルデザイン科** 平成15年卒

有限会社 スパイスワークス



卒業してはや四年になります。私は卒業後、すぐに、地元長野県の広告代理店に入社。地方なので、あまりめまぐるしい情報に振り回される事はなく、webとDPや映像など多岐のメディアの制作に関わる事ができました。入社時より、3年を区切りで転職について考え事にしていました。それは「ステップアップ」と「辛くても3年は耐える」という自分の中で誓いでした。長野ではいつも時代を追う側で、質も密度も次の段階という感じ、より進んだ高度なものづくりをしたいと、東京への転職を決めました。その時も山陽での人のつながりが大きな助けになり、今はデジタルコンテンツのデザイン・ディレクションをしています。まだまだ学ぶことはありますが、充実+多忙な日々です。

セントラル セントマーチンズ校



グラフィックデザイン科 在学中 服部亜美
 山陽に在学中、学校に招かれた先輩から、仕事の話と「私は留学も考えていたが、難しくて就職した」という一言が漠然と留学願望を持っていた私の決意するきっかけとなり、S校を受験しました。山陽を卒業後、デザイン研究所アシスタントとして働き、渡英。現在、グラフィックデザインを勉強中です。留学生活も1年を終えた今、感じたことは、目指したいことがあるならば、環境を選ぶことが大切です。なぜならば、周りも高いモチベーションを持った友達がいるからです。これからデザインを学ぶ方へ私が言えることは、デザインの固定概念にとらわれないで、自分が何をしたいかを一度なくして、人に何かを伝えるためのグラフィックデザインを目指し、強い信念をもっていい物を作ってほしいということです。

山協展のお知らせ

山協展 9月30日(土)～10月1日(日) 10時より

今年も、山協展の準備に入り、現在教室では学生主体にアイデアを出し合い、イベントのプランを練っている最中で活発な話声が聞こえてきます。日頃の成果を発表するカリキュラムの作品制作にも力を入れて頑張っております。

当日のID科のジュエリーショーは11時30分、14時の2回の予定です。また、学生指導によるジュエリー製作体験コーナーもあります。数と体験人数に限りがありますのでお早めにお越し下さい。ID科では今年も「あやめ賞」を目指し、カフェと玄関装飾で皆様をお迎えいたします。VD科は作品展示の他にオリジナルグッズ販売など楽しんで頂けるイベントを計画しております。今年も皆様とお会い出来ることを楽しみに、工夫を凝らしてお待ちしております。ぜひ、お誘い合わせの上お越し下さいませ。

●卒業進級制作展 平成19年2月17日(土)～18日(日)
学内会員 横森京樹



ID科 玄関の飾り付け



JA科 ジュエリーショー
四季の結婚

第35回 専門学校美術展

平成18年2月21日(火)～26日(日)

専門学校美術展も二度目の参加となり、展示方法や準備に工夫が出来るようになりました。卒業制作・進級制作を中心に、各科の特徴を活かした展示をし、他校に優るとも劣らない作品が数多く並びました。

VD科は、絵本・公共広告ポスター・立体作品を展示。アイデア満載のポスターに釘付けになっている人など、印象に残る作品が多かったのではないかと思います。ID科では、デザイン・インテリア/模型・椅子(実寸)・住宅模型&プレイボードを展示。完成度の高さに驚く人もみられました。ID科は斬新なネットワークスや細密なレンダリングを展示。なかでもネットワークスは、他校には無い、大胆さや繊細さを活かした作品だったため、多くの方が足を止めていました。今年度も「卒業・進級制作展」専門学校美術展(都美術館)両会場へ足をお運び下さい。

●専門学校美術展 平成19年2月ほぼ同日程の予定
学内会員 神山美奈子



VD科 イベント展示のディスプレイ



専門学校美術展会場風景

講師・職員移動報告

●退職された先生

ビジュアルデザイン科

清水 要先生 デザイン概論

長い間ご指導ありがとうございました。

●就任された先生

ビジュアルデザイン科

倉嶋正彦先生 デザイン概論

藤原信幸先生 デザイン概論

インテリアデザイン科

吉永光秀先生 環境ディスプレイ

ジュウリーアート科

富永 文先生 表面装飾

千草会より

●今年度の「千草会だより」は、誌面の都合でお休みいたしました。

●アクセス JR総武線

地下鉄 東京メトロ(有楽町線・南北線)

都営地下鉄(新宿線)

各線 市ヶ谷駅 下車

地下から学院へは「A2」出口が便利です。

発行 山協美術専門学校同窓会

〒102・0074

東京都千代田区九段南4・8・21

電話 03・3264・4020